

猪名川町立六瀬幼稚園 令和3年度学校関係者評価書

【教育目標】		豊かな心と健やかな体をもち 生き生きと生活する幼児の育成										学校関係者評価総評							
めざす幼稚園像		地域に愛され、信頼される幼稚園										・今年度もコロナ禍のため大変な1年だったが、来年度も引き続き、子どもたちのためによりよい園にしてほしい。 ・園児はのびのびと過ごしており、元保護者という立場では、満足のいく幼稚園である。 ・地域住民という立場に立つと、子どもが少ないため、幼稚園の認知度が低く感じられる。より広いエリアへの広報だけでなく、地域への認知につながる活動が望まれる。 ・昨年度と同様に、コロナ禍の影響で地域や異校種間の交流が希薄になっていることが懸念されるなかで、具体的な打開策を地域や校区(園区)ぐるみで考えていく必要がある。 ・令和5年度の統合・3歳児保育開始に向けた準備を、2園の十分な共通理解のもとに進めていただきたい。							
めざす子ども像		元気いっぱい遊ぶ子 感性豊かな思いやりのある子 自分で考え行動できる子																	
(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない)														(◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない × 適切でない)					
評価の観点	教職員	評価基準	A	B	C	D	AB評価	評価	園の改善方策						自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	学校関係者評価委員の提言		
園運営	教育目標「豊かな心と健やかな体をもち、生き生きと生活する幼児の育成」は達成できたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・「豊かな心」を育むために、お互いを思いやる気持ちを大切にし、自分の気持ちを言葉で伝える力育成に力を入れた。 ・「健やかな体」を育むために、リズム運動や園庭の遊具を使って体幹を鍛え、マラソンや縄跳びなどに取り組むことで基礎的な体力づくりを行った。 ・上記の取り組みは保育の中で継続し、集団遊びにも力を置いて、よりよい仲間づくりにつなげていきたい。 ・今年度も講師を招いての園内活動、園外での様々な体験活動に取り組むことが難しかった。そんな中でも、ある程度は地域特性・特色をいかした活動をすることができた。次年度は園児数や幼児の実態に見合った内容になっているかを検討したうえで計画を立てよう。 ・保護者やボランティア・地域の皆様のご支援・ご協力のもとに成立している行事が多い。次年度もご協力いただけるよう、ねらいを明確にし、関係機関との連携を図りながら、取り組みを進めていく。 ・引き続きやりがいのある職場となるよう、職場環境の改善に努め、お互いがカバーしあえる職員体制づくりに努める。 ・少人数の職員であるため、職員間の連携が取りやすい。必要な情報を共有して、より良い保育を実践していく。 ・保護者と顔を合わせて話す機会が少ないバス通園の園児について、電話や手紙、通信等を通じて情報を共有できるように努める。 ・バス通園の園児については、添乗員との情報交換を密にして、些細なことでも見逃さない姿勢を保つ。							○	◎	・この状況下でも様々な体験プログラムを実施しており、園児や保護者には満足度の高い保育内容だと思います。 ・園分掌について、昨年度より改善されているように見受けられるが、評価にはばつきがあるのが気になる。 ・子育て相談がしやすいかの評価については、おそらく保護者同士の関係がしっかりとあるため、園に頼る局面が少ないのかと思う。		
	園行事を幼児が主体的に楽しく参加できるよう計画し、実施できたか	50%	50%	0%	0%	100%	A												
	園行事やオーブン参観は保護者や地域が参加しやすいように実施されていたか	0%	100%	0%	0%	100%	A												
	園分掌は適切に分担され、運営されているか	33%	50%	17%	0%	83%	A												
	職員間の共通理解、信頼関係に基づいて保育が行われているか	67%	33%	0%	0%	100%	A												
	公簿類の整理及び処理と期日までに行い、関係書類の保存管理を適切に行えたか	0%	100%	0%	0%	100%	A												
教育計画研究推進	子育てについての相談がしやすい開かれた園づくりができていたか	0%	67%	33%	0%	67%	C												
	研究主題「生き生きと豊かに遊ぶ幼児を育てる～言葉を通した人とのかかわり～」に基づいて課題を明確にし、組織的、計画的に園内研究に取り組めたか	0%	83%	17%	0%	83%	A	・園内研修や日常の情報交流を通じて、研究主題を意識した教育実践が一定程度はできたが、組織的・計画的にできた部分とそうでない部分がある。 ・園外での研修がほとんど中止になる中で、数少ない講演やオンライン研修などに参加した職員が学んだことを園内に還元することはできた。 ・今後は外部での大きな研修の持ち方も見直されることが予想されるので、園の課題解決にとって必要なものを精選し、積極的に参加していく。						○	◎	・研修の機会が減っているのは不可抗力だが、普段の保育環境では気づきえない啓発を受けることは必要だと思う。今後もオンライン研修等、有用な機会を活用することが望ましい。			
	園内研修や研修会などに積極的に参加し、指導力等質質の向上に努めたか	0%	67%	33%	0%	67%	C												
生活・安全教育環境	危機管理に対する意識をもら、体制作りをしていたか	17%	50%	33%	0%	67%	C	・年間の防犯・防災などの行事を丁寧に取り組み、指導を仰ぎながら園環境に即した危機管理体制の見直しを行う。また、保護者と共に学ぶ機会を設けることで、家庭でも意識を高めてもうら。						○	◎	・防犯に関して、保護者と共に学べるのはありがたい取り組みなので、今後も継続してほしい。 ・生活環境として、トイレの改善は大きな課題だと思う。 現存のトイレは、園児だけでなく、「いなばう広」場等の来園者にとっても抵抗感があると思う。			
	遊具・用具の安全な使い方を指導していたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・遊具や用具の使い方については、具体的な場面の中での指導を心がけていく。 ・感染症対策はもちろんのこと、環境調整や保護者啓発、予防活動に努めることができた。次年度も常に意識をもち、留意していく。											
	幼児の心身の健康に留意して、健康管理ができたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・保健指導や食育指導が実践できたか											
	保健指導や食育指導が実践できたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・日常生活行っている感染症予防対策(園児の接触制限・清掃・消毒など)がマンネリ化していないか、職員が相互に点検する必要がある。											
	施設の整備点検、修繕管理ができ、園が生活の場として美しく整っていたか	17%	67%	17%	0%	83%	A	・すでに始まっているが、令和5年度からの2園統合や3歳児保育の開始を見据えて、施設・設備について新設・改修が必要な個所を絞り検討し、受け入れ態勢を万全にしなければならない。											
	消耗品や水道、電気など意識して節減に努めたか	50%	50%	0%	0%	100%	A												
特別支援教育	特別支援教育コーディネーターを中心に、計画的・組織的に取り組めたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・町や川養の巡回相談も中止になることが多く、関係機関との連携を十分に行うことができなかった。 ・町主催の研修会をはじめ、猪名川教・阪神同教などの講演会・研修会(多くは中止されたが)資料を参考にして、支援を要する子どもの理解を深めることができた。						○	◎	・保護者理解が進んだという評価は喜ばしいことと思う。 ・「幼稚園での取り組み」という枠を設けず、園児同士・保護者も含めて特別支援教育にコミットしていくことが必要ではないか。			
	幼児一人一人の困り感に寄り添った支援を話し合い、必要に応じて「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、支援内容の明確化と共有化を図っていたか	50%	50%	0%	0%	100%	A	・今年度は保護者向けの講演会を設けることができなかったため、来年度は実施する計画を立てたい。 ・学校関係者評価委員の提言にもあったように、子どもたち同士の自然なサポートができるような雰囲気づくり、学級づくりに一層力を入れたい。 ・子どもの思いと教師のサポートにズレがないか、確認しながら支援する。 ・支援員との情報共有は日常的に行っているが、さらに共通理解を深めるためにも、引き続き「支援の記録簿」に担任が目を通しておくことが大切である。 ・幼稚園の支援体制や指導計画についての保護者理解が進んだので、次年度もアクセスメントやコンサルテーションを丁寧に行っていく。											
保育指導	幼児が興味関心をもつ保育活動や豊かな体験ができる保育環境の工夫ができたか	50%	50%	0%	0%	100%	A	・幼児の実態を把握した環境構成の工夫ができるよう、研修会を設け実践を積み重ねていく。 ・困ったときの発信や気持ちの伝え方など、互いが気持ちよくなる言葉のつかい方に課題があった。CSSTの取り組みは成果が見られるので、次年度も内容を工夫ながら実施する。						○	◎	・人数が少なく園児同士の関係性が高いと、日常の定型のやり取りで過ごしてしまいがちになる。特に言葉によるコミュニケーションスキルは身につきにくい環境にあると思うので、力を入れていただきたい。			
	自分の思いや考えを言葉で伝えたり、話を聞く態度を育てたりするなど、言葉の力の向上に取り組むことができたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・生活習慣の習得にむけて、園も家庭もともに指導に努める。 ・体力作りは、生活の質を高めるために非常に大切である。リズム運動・わんぱくタイムは、計画的に1年を通して取り組むことができたので、次年度も一人ひとりの育ちに配慮しながら正しい動きを習得させる取り組みをする。											
	あいさつや手洗い、衣服の着脱など幼児の基本的生活習慣の形成に取り組むことができたか	50%	50%	0%	0%	100%	A	・基礎体力や体幹を鍛えるために、普段の生活で使うことが少ない部位を動かすような遊具を工夫する。 ・動物や鳥を飼育することが、衛生管理上容易ではなくなってきている。できるだけ生き生物の種類を増やし、季節ごとの様子を観察できるようにしたい。											
	遊びを通してルールや約束を守ることの大切さや相手を思いやる気持ちをはぐくむことができたか	17%	83%	0%	0%	100%	A	・餌やり当番活動を継続して行い、園児全員が生き物の世話を関わることを通して生命の大切さを感じさせたい。 ・今年度実施できなかった園内外での体験活動、とりわけ食育体験については、できる限り地域とのつながりを大切にしながら精選し、感染症予防対策を講じたうえで実施できるものを計画する。											
	保育環境などを工夫し、幼児の体力づくりに努めたか	0%	100%	0%	0%	100%	A	・学校関係者評価委員の提言にもあったように、次年度からはテーマや具体的な内容を検討したうえで、CSSTを4歳児クラスから始める取り組みをしたい。 ・「聞く力」の大切さは幼稚園でも実感しているところであり、日々の保育だけでなく個別の幼児とのやり取りを通して意識しなければならないと考えている。											
	生き物の世話や植物の栽培を通して生命の大切さを指導できたか	67%	33%	0%	0%	100%	A	・生き物の飼育や草花・作物の栽培について、地域の方に協力していただくことはありがたいことであり、住民との交流を深める意味で大切である。今年度、園からの発信ができていなかった反省をもとに、次年度は働きかけていきたい。											
保護者・地域異校種交流	一人ひとりの良さやがんばりを認め励ました、個々に合った指導ができたか	33%	67%	0%	0%	100%	A												
	園での出来事や幼児の成長について機会あることに伝え、保護者との連携を図ることができたか	0%	100%	0%	0%	100%	A	・歩徒通園とバス通園では保護者と交流できる機会に差があるため、伝え方やタイミングを工夫していく。 ・未就園児との交流活動「いなばう広場」が計画通りできなかったので、次年度はさらに活動内容を工夫とともに、広報活動に力を入れる。						○	◎	・コロナ以降、地域とのつながりが少なくなっているのは懸念されるところ。せっかく北部地域に幼稚園を継続することになったのだから、地域とのつながりが絶しないよう模索していただきたい。 ・幼稚園はPTA活動が園行事に関わる要素が強い。改善方策の通り、今後の再編に向けて、様々なギャップを調整する必要がある。			
	未就園児と在園児との保育を計画的に実施し、子育て支援に取り組むことができたか	33%	33%	33%	0%	67%	C	・幼小中の連携においては幼稚園だけでは学べないことを学ばせてもら											